

第4回 ワイヤレス固定電話検討作業班

構成員からのご意見に対する考え等

2020年8月11日

日本電信電話株式会社
東日本電信電話株式会社
西日本電信電話株式会社

- 第3回ワイヤレス固定電話検討作業班にて、ターミナルアダプタは、特定端末設備との位置づけで端末設備等規則に従って、NTT東西が責任を持って提供されることが確認された。ターミナルアダプタは携帯電話事業者ではなく、NTT東西に制度上の責任が発生する認識だが、認識誤りはないか。

(NTTの考え)

- ターミナルアダプタはNTT東西の設備であり、NTT東西としてはご意見いただいた通りの認識

- モバイル網～NTT網への0ABJ番号での発着信における技術的な実現のため、NTTから通信の秘密に該当する情報を提供いただく必要がある可能性が考えられる。当該行為については正統業務行為とみなされるか。

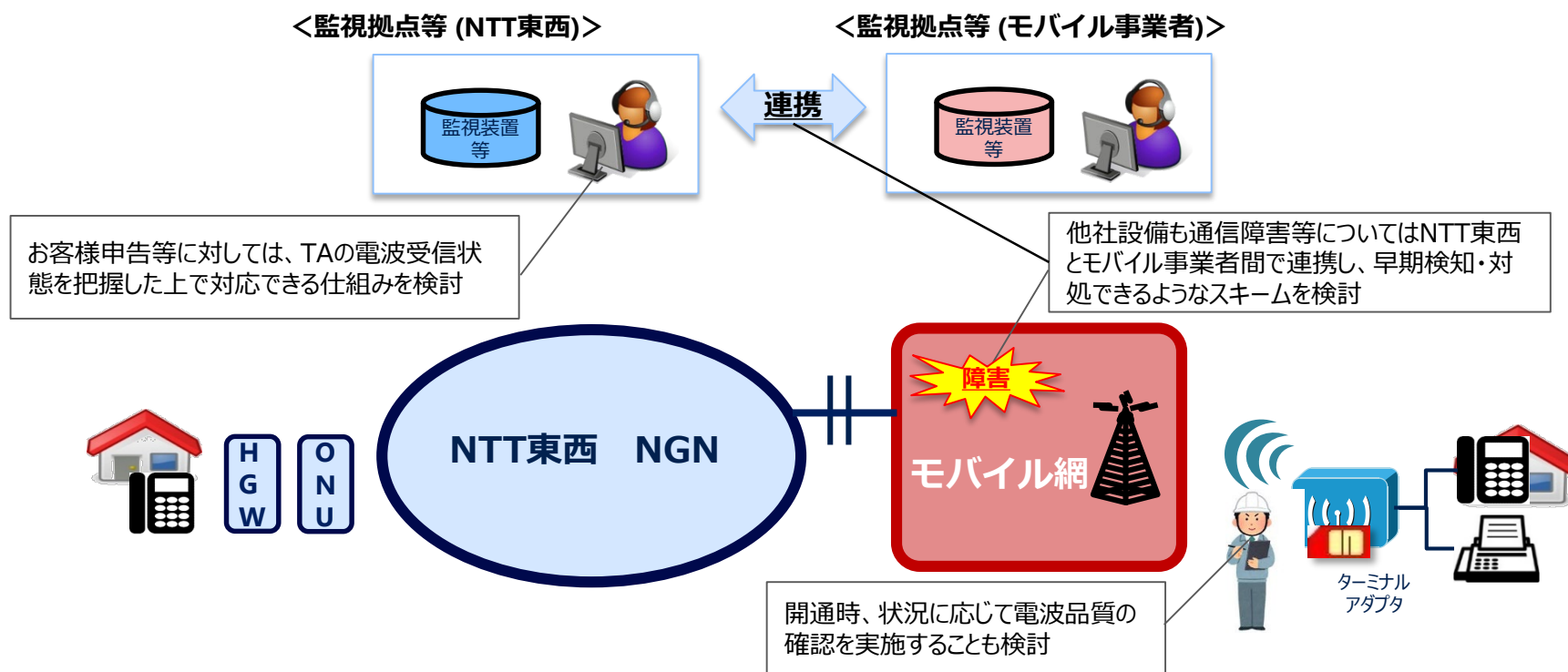
(NTTの考え)

- ワイヤレス固定電話のサービスを実現するためには、モバイル事業者側でワイヤレス固定ユーザであることを識別していただく必要があるが、どのように識別していただくかの詳細は今後の実現方式の検討の中で明確にしていく予定
- モバイル事業者との間での情報の授受が通信の秘密の侵害に該当しうる場合は、事前にお客様の同意を得る考えであり、また当該情報の扱いについては、当該事業者との間の契約において、厳格な運用・管理を求める考え

- どの程度の電波受信状況であれば、通話品質、発着信可否にどの程度影響するかといった目安となる値はあるか。また、その値はターミナルアダプタ側で測定可能か。
- ターミナルアダプタとNTT東西のIP-POIの間などで携帯電話網の遅延、揺らぎ、パケットロス監視する機能を実現できないか。

(NTTの考え)

- 通話品質は、電波受信状況以外にも左右されるものであり、電波受信状況からの推定は困難と考えるが、無線区間の品質は固定回線より変動要素が多いことが想定されるため、お客様申告等に対してはターミナルアダプタの電波受信状態を把握したうえで、遠隔での切り分け・解析等が可能な仕組みを検討中
- 開通時の接続確認に加え、状況に応じて電波品質の確認を実施することも検討し、お客様への安定的なサービス提供に努めていく



下記理由から、停電時におけるバッテリー等によるターミナルアダプタへの電源供給等の代替案を義務づけることまでは不要と考えます。

- 「ブロードバンドサービスが全国に普及するまでの移行期におけるユニバーサルサービス制度の在り方答申」（2010年12月14日 情報通信審議会）において、局給電を提供できないことは「ユニバーサルサービスとして許容できる範囲」と整理されていること
- 基礎的電気通信役務に指定されている、加入電話に相当する光IP電話においては、現に局給電機能を有していないものの、その旨を利用者等に対して、事前に説明することで大きな問題は生じていないこと

(イ) 局給電機能の差異

他方、光IP電話が加入電話と異なる点としては、光ファイバの特質上、局給電を提供できないため、端末等に電源が必要であり、基本的には停電時に利用ができないことがあげられる。

これらの点に関し、端末に電源が必要なことについては、他の家電製品の利用の場合と同様であると考えられる。また、停電時の利用に関しては、①我が国では、近年、停電件数が減少しており、諸外国と比べても停電が少ないこと、②携帯電話の普及が進んでおり、携帯電話が利用可能な世帯では、停電時にも携帯電話からの通話が可能であること、③停電時でも光IP電話の利用確保が必要な利用者に対しては、端末側で停電対応機器の設置を行う等の対策をとれば一定の利用は確保できること、なども考慮すれば、ユニバーサルサービスとして許容できる範囲のものと考えられる。

※「ブロードバンドサービスが全国に普及するまでの移行期におけるユニバーサルサービス制度の在り方答申」（2010年12月14日 情報通信審議会）抜粋

局給電機能の代替策

(第3回 ワイヤレス固定電話検討作業班 補足説明)

- ワイヤレス固定電話を提供する目的が、固定電話サービスの安定的な提供の確保に向けて効率化を図ることであることを踏まえ、局給電機能の代替策（一般的なバッテリー等での給電）については、希望されるお客様ご自身にご用意いただく考えです
- なお、お客様への丁寧な説明や代替策の提案等の準備を検討中です

「バッテリーを用いた代替策をNTT東西が提供した場合の想定コスト」

	案1 ターミナルアダプタ内蔵バッテリー	案2 外付けバッテリー (モバイルバッテリータイプ)	案3 外付けバッテリー (UPSタイプ)
接続イメージ	<p>ターミナルアダプタ コンセント</p>	<p>ターミナルアダプタ コンセント</p>	<p>ターミナルアダプタ コンセント</p>
メリット	停電時にお客様の操作なく給電が可能	バッテリー劣化時の交換が容易 容量の選択肢が広い	一般に大容量で長時間の使用が可能 停電時にお客様の操作なく給電が可能
デメリット	一般に小容量で使用可能時間が限定的 バッテリー劣化時の交換が必要（一般に数年単位）だが、内蔵型のため交換が困難	停電時にお客様の操作（差替え）が必要 バッテリー劣化時の交換（一般に数年単位）が必要	他2案と比較して高価 バッテリー劣化時の交換（一般に数年単位）が必要
想定コスト	コスト：最大 [redacted] 円/年 BATT：3000円～10,000円/台 [redacted] ユーザ、3年毎に交換と想定) ※物品費のみ、交換費用が別途必要	コスト：最大 [redacted] 円/年 BATT：3000円～10,000円/台 [redacted] ユーザ、3年毎に交換と想定) ※物品費のみ、交換費用が別途必要	コスト：最大 [redacted] 円/年 BATT：3000円～50,000円/台 [redacted] ユーザ、3年毎に交換と想定) ※物品費のみ、交換費用が別途必要

[redacted] : 構成員限り